

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 金沢市立三和小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒921-8066
石川県金沢市矢木1丁目74番地

E-mail miwa-e@kanazawa-city.ed.jp
Website _____

幼児児童生徒数 男子 277 名 女子 239 名 合計 516 名
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「金沢の魅力～人とのつながりを大切に～」を活動テーマとして、テーマに関わる講師を迎えて話を聞くこと、実際に体験することを取り入れるようにし、課題解決を図り、自ら求める子、自ら思いやる子、自ら行動する子の育成をめざした。

具体的には、地域、福祉・人権、国際交流を柱に、①地域の伝統文化に係わる学習、②福祉に係わる学習、③国際交流に係わる学習を行った。

① 伝統文化に係わる活動

3年「金沢の和菓子文化について学ぼう」

金沢の和菓子消費量が日本一であることから、「なぜ日本一なのかな」という学習課題を持った。和菓子職人さんに質問したり、職人さんに教わりながら自分で実際に練り切りを作る体験をしたりと主体的に学んでいった。これらの体験を通して、子どもたちは、職人さんの巧みな技だけでなく、職人さんが季節感やお客さんを大切にしていること、日々創意工夫を重ねていること、金沢ではお茶文化とともに和菓子文化が愛され、伝承されてきたことに気づくことができた。

② 福祉に係わる学習

5年「共に生きる ～やすらぎホーム～」

「やすらぎホーム」のお年寄りとふれ合う活動や模擬体験等を通して、相手の立場になって考える力や相手を思いやる心を育むことを目標に計画を立てた。また活動の中で、お年寄りの方との交流会を開催し、企画・運営に積極的に関わったり、仲間と協力して会を成功させようとしたりする経験も大切に考え活動を進めた。

ソーラン節の披露や遊びでの交流、ホーム主催の「やすらぎの里まつり」への参加など3回に渡ってホームのお年寄りの方々と交流した。一番の成果は、人の一生や生きることの意味について一人一人が5年生なりに考えられたことである。そして、今後の子ども達の人生の中で少しでも思いやりの心が生きる瞬間があることを切に願っている。

③ 国際交流に係わる学習

オーストラリアから研修生 12 名をお招きし、これまでの総合的な学習で学んだ金沢の伝統工芸や文化などから、金沢の魅力を英語で紹介した。わかりやすく伝えるために実物や写真を提示したり、ジェスチャーを交え相手の表情を見て話したりと、学んだことを生かしてプレゼンテーションをし、自分たちの思いが伝わったことに達成感と喜びを感じ、これからも英語を学習し、もっと外国人と交流してみたいという思いを持っていた。

今回の学習を通して、金沢には外国人にも魅力的な伝統文化や食文化、観光スポットが多いことに改めて気づき、金沢に誇りをもち、積極的にコミュニケーションをとっていきたいと思う心が強くなった。

① の写真



② の写真



③ の写真



(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながり尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input checked="" type="checkbox"/> 8. その他（郷土を大切にしている態度）	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他（自由記述）	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

華やか金沢 金沢ふるさと偉人伝 各施設のなど

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

各学年の総合的な学習の時間に3年では伝統行事や文化について学び、テーマに沿って調べる力を、4年では伝統工芸や金沢の偉人について学び、多様な観点で課題を設定し追求する力を、5年では地域の福祉施設を訪問し福祉・人権について学び、体験から学び自分の学びを適切に表現する力を、6年では金沢の魅力を伝える国際交流を通して、各教科で学んだ力を生かして発展的に考える力を身につけることをめざし、活動を位置づけている。総合的な学習の時間だけでなく、国語科、社会科や道徳、英語科等との関連をはかって実施している。

学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

総合的な学習の時間全体計画に上記の内容を確実に位置づけ、お世話になった講師、体験や見学場所の連絡先を教育課程に記入しておき、年度がかわった後もすぐに活動に取り組めるようにしておく。

- ③ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

評価は職員にアンケート形式で行った。（項目「地域などの学校外の文化施設や歴史・文化、人々とのつながりを意識した教育活動を工夫している。」）

実際に見聞きしたり、体験したりすることで、積極的に課題を解決し、理解を深めることができた。また、地域の人々や伝統文化を受け継いでいる人々、金沢の発展に尽くした人々の思いや願いにも触れ、「金沢を大切にしていきたい」「世界の人々とつながっていききたい」といった思いを持つことができた。

課題としては、学んだことや考えたことを発信する力がまだまだ弱いこと、全校や地域に向けて発信する機会がなかったことである。情報を発信するには、その相手や目的、方法を明確に持ち、分かったことに加えて自分の気持ちや考えを相手に向けて発信しなければならない。学んだことを自分たちだけにとどめるのではなく、発信する相手や目的を意識し、情報を収集する力、表現・発信する力をつけていきたい。

- ④ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

今年度、ESD の推進拠点としての活動成果を発信する機会は学年、学校だよりを主として活用した。活動の様子や活動後の子ども達の成長した姿について、写真と文章で発信した。保護者に子ども達が頑張っている姿や成長した姿を知ってもらい、それぞれの家庭で励ましや賞賛の声をかけてもらうことで、子ども達の新たな学びへの意欲につながっていった。

- ⑤ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）

今年度は6年生の国際交流では、石川県国際交流協会を通じて豪州協会から12名の研修生をお迎えした。昨年度も同様に研修生をお迎えして交流しており、今年度も是非お願いしたいと協会の方から依頼があった。年齢、職種、日本語能力も様々な研修生の方々とふれあう機会となった。

- ⑥ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

他校との交流は行わなかった。今後西南部中学校区3校での連携ができればよい。

- ⑦ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

人々とのつながりを意識した教育活動を取り入れることで、子ども達の学習に向かう意欲が向上した。実際に人とふれあい、本物を見聞きしたり、体験したりすることで、活字だけの理解ではなく、本質やそれに関わる人々の願いや思いに気づき、理解を深めることができた。

- (3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

今年度同様、総合的な学習の時間を柱として「金沢の魅力～人とのつながりを大切に～」を活動テーマとし、テーマに関わる講師を迎えて話を聞くこと、実際に体験することを取り入れ、主体的な課題解決を図り、自ら求める子、自ら思いやる子、自ら行動する子の育成をめざしていきたい。課題となっている学んだことや考えたことを発信する力について、全校や地域に向けて発信する機会をもうけ、発信する相手や目的を意識し、情報を収集する力、表現・発信する力をつけていきたい。